

## 第 2 部：器楽および声楽

### XIV. 一般規則

#### 1 4 - 1

国際的合意と、様々な国で継続的に行われてきた点訳資料のデータベースの構築により、点字楽譜の使用がさらに国際的になるに従って、次に挙げる一般的事柄は役立つであろう。

#### A. 序文のページ

#### 1 4 - 2

一般点字で短縮形を使わないという同意が、その国でなされているかどうかに関わらず、題名のページと注意書きのページでは短縮形を使わない事は大変重要である。

これは楽譜の出版者の名前や住所のみならず、曲名、作曲者名においても適用される。国に依る記号や特別な記号についての注意書きも、短縮されるべきではない。

#### 1 4 - 3

もし I.S.B.N.番号が墨字に書かれているならば、これは国際的に図書館員にとって大変役立つものである。すべての点訳タイトルページに I.S.B.N.番号を記す事を提案する。

#### 1 4 - 4

注意書きのページあるいはセクションは、次のものを記さなくてはならない。

- A. 本書に書かれていない全ての記号
- B. もしプラス、マイナス、斜線、イタリック体などが点訳物にあるならば、その国での記号
- C. アクセントのついた文字の記号
- D. 編集上の印や、弦楽器音楽でのポジション記号のためのアラビア数字、ローマ数字のような墨字での指示、および矢印や他のあまり使われない視覚的な助けとなる指示についての記述。

これらの事柄は、晴眼者の生徒を持つ視覚障害者の教師にとって、欠くことの出来ないものである。

## B. 楽譜における一般的な主要点

表 14 の記号

⋮⋮	楽譜の前置符：楽譜のかっこ
⋮⋮	歌詞や説明、あるいは言葉での情報などの文字のための前置符
⋮⋮	一声以上ある場合に、音が同時に鳴らされる事を示す記号
⋮	小節の途中である事を示すハイフン
⋮⋮	墨字のページ数を示す前置符
⋮⋮	編集上の印を示す前置符
⋮⋮⋮	楽譜のアスタリスク
⋮	メトロノーム記号でのイコール記号

### 1 4 - 5

前置符 ⋮⋮ は、楽譜の行やセクションを示す。この使い方は国によって異なる。文章の中では、それは楽譜の記譜になる事を示している。それが楽譜の行やセクション内にある時は、カッコ（丸カッコ）を示している。その場合、この記号は、墨字においてカッコに入れられた音符や指使い等の前後に記される。

### 1 4 - 6

文章と楽譜の部分をはっきり区別するために、前置符 ⋮⋮ を歌詞の行毎、あるいはセクション毎に記している国もある。例 1 6 - 7 を参照せよ。これはまた、他の場合でも文章を示す為に、使われる。

### 1 4 - 7

⋮⋮ の記号は、鍵盤あるいは器楽音楽において、二声以上の声部がある時に使われる。この場合、この記号の場所で、二つ以上の声部が同時に鳴らされる事を表している。

例 1 5 - 1 3 は鍵盤音楽での例であるが、この記号はどのような種類のアンサンブルでも有用である。つまり、現代のアンサンブル曲において、声楽家の楽譜と調整するのに使うことができる。

### 1 4 - 8

5 の点の後にマス空けがある時は、ハイフンを意味し、小節が終わっていない事を示している。これは点訳行の終わりや、小節内に言葉を挿入する時に、また、小節の途中の複縦線の後に使用される。

## 1 4 - 9

前置符 ∴ は、墨字のページが変わることを示している。これは単独で使われたり、その後墨字のページが書かれたりする。これは、楽譜のセクションの初めや、ページの隅や、楽譜の中程や、ページの余白などで見られる。多くの国が墨字のページを記す価値に、気が付いている。

## 1 4 - 1 0

墨字と点字のページの番号は、セクションの初めか他の場所に、正規の数字と下がり数字の組み合わせで示す事が出来る。次の表示は、点字の 13 ページと墨字の 10 ページである。順序は逆になっても良く（墨字を先のように）、その順序はその出版物を通しては変えないようにする。

∴ ∴ ∴ ∴

## 1 4 - 1 1

正規の数字と下がり数字の組み合わせの他の使い方として、ページと譜表、セクションと小節、セクションと譜表などがある。

## 1 4 - 1 2

曲や楽章の初めのアウフタクト（弱起）の小節番号は、0（ゼロ）である。曲の途中で次の小節へのアウフタクトを示したいならば、小節番号の後に 3 の点を打つ。数字は正規でも下がり数字でもよい。次の表示は、16 小節目へのアウフタクトから始まり、32 小節目で終わるセクションを表している。

∴ ∴ ∴ ∴ ∴ ∴ ∴ ∴

## 1 4 - 1 3

バー・オーバー・バーで記された鍵盤音楽では、小節番号は欄外に記し、数符は付けない。1つの数字はシステム（右手、左手、ペダルをまとめてそのように呼ぶ）の中のすべての譜表に適用される。別の数字（数符なし）が左手の前置符の1マス前に出てきた時は、墨字ページにおけるシステム番号を意味している。例 1 4 - 1 3 は墨字ページで三段目の頭にある 16 小節目の始まりを示している。

例 1 4 - 1 3       ∴ ∴    ∴ ∴ ∴ ∴ ∴  
                          ∴ ∴ ∴ ∴ ∴ ∴ ∴



例 1 4 - 1 7

(a) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

♩ = 72-80

(b) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

circa ♩ = 106

(c) ⠠⠠⠠

♩ = ♩

1 4 - 1 8

曲や独立した部分の初めにある速度及び発想記号は、点字の 1 行の中に一つの項目だけがある時以外は、後ろにピリオドを打つ。  
一般的な項目の順序は、発想記号、メトロノーム記号、調号、拍子記号である。

1 4 - 1 9

曲の終わりにある演奏時間のような情報は、例えば“6 min. 30sec.”のように墨字においてどんな省略形が使われていても、点訳すべきである。  
もし墨字譜に、言葉や省略形よりも記号が書かれているならば、点字では適切な記号を使用する。

例 1 4 - 1 9

⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠